

# 合言葉は「森岳歌舞伎を通じて、町おこし、人づくり、ふるさと創生をはかろう」

## ～森岳歌舞伎保存会～

毎年9月に森岳地区の八幡神社で舞の奉納が行われる伝統の森岳歌舞伎、この時期になると、生活は歌舞伎一色、地域に愛される歌舞伎を演じていこうと日々切磋琢磨する「森岳歌舞伎保存会」のみなさんをご紹介します。

住  
みたね  
住  
マイル

みたね住(ス)マイルでは  
三種町で頑張る皆さんを  
どんどん紹介していきます!

### 森岳歌舞伎保存会

「森岳歌舞伎」は江戸時代中期に始まったと言われ、毎年9月に森岳の八幡神社にある農村歌舞伎会館で奉納されています。

昨年からは町内外の芸能団体が一堂に会して披露される「伝統芸能の祭典」との同時開催で行われ、9月16日、山本ふるさと文化館と農村歌舞伎会館を会場に披露されました。

昭和63年、過疎化などの影響で、日本各地の伝統芸能が廃れていく中、森岳歌舞伎も後継者不足により一時活動停止を余儀無くされました。

しかし平成3年、歌舞伎を演じていた10代、20代の青年達を中心となつて森岳歌舞伎を復活します。

その活動はフランス国营テレビ「チャンネル3」により、ヨーロッパ各国はじめ、カナダ、ブラジルなどで放映され一躍脚光を浴びることになりました。

番組の冒頭、颯爽とバイクで走る姿を紹介される「ムッシュ イシツカ」こと石塚善信(保存会会長)さんは仲間たちと「森岳歌舞伎保存会」を立ち上げ伝統芸能による地域おこしと、人づくりを目指して活動を続けています。

### 歌舞伎稽古

9月11日、歌舞伎奉納が迫って練習に熱のこもった農村歌舞伎会館を訪れました。

午後7時、子どもたちの演目である「三番叟」の稽古が行われていました。演じるのは三年目の嶋田暖くと初めて歌舞伎に挑戦する嶋田孝太朗くんの二人。例年一人で行ってきた演目が初めて二人に増えるという嬉しい出来事に、稽古も力が入ります。

小学生が終わると、大人達の稽古が始まりました。今年の演目は、「一谷嫩軍記 あばら屋の段」、森岳歌舞伎の十八番です。

落ちのびた平家の平忠度(ただのり)を中心に、許嫁(いらいは)「菊の舞」との悲恋や、乳母「はやし」と息子の「太吾平」、人足回しの「茂次兵衛」の掛け合いや忠度と源氏方の武将の情のこもった場面など、笑いあり、涙ありの物語です。

中学二年生の高崎一輝さんは、源氏方の武将「岡部六弥太忠純」を演じます。小学生で始めたクラブ活動でその魅力にとりつかれ毎年参加しています。今年は初めて大役を任せられ気合が入ります。

平忠度役の児玉佳史さんと忠度を追う梶原平次景高役の小野幹基さん。師匠達の演じる歌舞伎に憧れて入った二人。師匠に追いつけ追い越